

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	社会倫理学特論	担当教員	空 健太 (第 4 回～第 8 回授業：高津正吉)		
学年学科	専攻科 2 年次 全専攻	前期	必修	2 単位	
学習・教育目標	(A-1) 40%, (A-2) 60%		JABEE 基準 1 (1) : (a) (b) (f)		
授業の目標と期待される効果： 科学技術の発展が著しい現代社会では、我々は便利な反面多くの危険と隣り合わせになっている。技術の実践に関わる者は、専門的知識や技術だけでなく、社会的な通念・常識についての洞察および専門職としての倫理的判断能力が求められる。 本授業では、多様な価値観を背景に成立している現代社会の特質について考察し、考えられる倫理的判断や求められている倫理的判断について学ぶ。そして様々な具体的な問題事例を分析していくことにより、技術者として望まれる認識・判断力形成、資質育成を目指している。 (1) 現代社会の倫理的課題の考察を通じた価値葛藤の把握 (2) 技術者倫理の意味、必要性、関連する倫理的課題の概要、対立構造の理解 (3) 倫理的課題に対する、市民および技術者としての意思決定、およびその根拠の説明 (4) 実践の場で生かそうとする態度の涵養		成績評価の方法： 期末試験 50 点＋課題提出 50 点で 100 点満点で成績評価を行なう。 試験は 25 点分は技術者としての倫理に関する選択問題を、25 点分は論述問題を課す。課題は教室外学修の中で取り組んだ成果を評価するものとする [課題①～課題⑭]。 達成度評価の基準： 以下に示す要素について総合点の 60%以上まで達していることが必要。 ① [現代社会の知識・理解] 現代社会における倫理的課題を具体的に説明できる。 ② [技術者倫理の知識・理解] 技術者倫理に関する課題の背景、内容、対策について、適する具体的事例を用いて論理的に叙述することができる ③ [判断・表現力] 技術者としての専門的見地から、望ましい倫理的判断を論理的・説得的に提示することができる ④ [行動・実践力] 実践上 (研究活動の場など) においても倫理的な行動を実践することができる			
授業の進め方とアドバイス： 授業は講義と演習を併用する。講義は、倫理思想や最近の事件などを取り上げ、技術者倫理に関わる基本的な概念や事実を確認し、演習で考察するための手立てを獲得することを目的とする。演習は、具体的な事例分析を行い事例の分析を通して、問題を分析する力や倫理的な判断について考察するとともに、どのようにして合意を形成するかということ学ぶ。また、教室外学習として課題に取り組むことを要求する。					
教科書および参考書： 齊藤了文・坂下浩司編『はじめての工学倫理 第 3 版』(昭和堂, 2014 年) を利用する。必要に応じてプリントや VTR を用いる。参考文献として、新田孝彦ほか編『科学技術倫理を学ぶ人のために』(世界思想社, 2005 年)。参考文献は他にも授業の中で随時紹介する。					
授業の概要と予定：前期		教室外学修			AL のレベル
第 1 回：イントロダクション	①「技術者倫理」とは何か、なぜそのような科目を学ぶのかを調べ、自分の考えを整理する			B	
第 2 回：現代社会と倫理思想	②最近のニュースを取り上げ、どのような倫理的な対立が見られるかを分析する			B	
第 3 回：望ましい技術者とは何か：技術者倫理の見方の検討	③自分にとって「望ましい技術者」を考え、その像を社会で求められる「望ましさ」と比較する			B	
第 4 回：技術者の倫理と判断(1)	④技術者が直面する問題状況 (=不正な利益) について考察する。			C	
第 5 回：技術者の倫理と判断(2)	⑤技術者が直面する問題状況 (=リコール) について考察する。			C	
第 6 回：技術者の倫理と判断(3)	⑥技術者の倫理と判断をめぐる問題状況 (=賄賂と受容可能な贈り物) について考察する。			C	
第 7 回：技術者の倫理と判断(4)	⑦技術者の倫理と判断をめぐる問題状況 (=専門家と非専門家) について考察する。			C	
第 8 回：技術者の倫理と判断(5)	⑧技術者の倫理と判断をめぐる問題状況 (=グローバル化) について考察する。			C	
第 9 回：倫理綱領の意義と具体的な適用	⑨自分が所属する学協会の倫理綱領を取り上げ、そこから作成した活動規範を研究生生活上で実践する。			A	
第 10 回：仮想問題事例における意思決定(1)	⑩個人的な意思決定とグループでの意思決定を比較し、考察する。			A	
第 11 回：仮想問題事例における意思決定(2)：グループ討議					
第 12 回：ケーススタディ：事例の分析(1)	⑪他者の事例技術者倫理に関わる事例を 1 つ取り上げ、その内容を分析し、自己の考察を加える。			C	
第 13 回：仮想問題事例における合意形成(1)：グループ討議	⑫グループでの意思決定の意義と課題について考察する。			A	
第 14 回：仮想問題事例における合意形成(2)	⑬グループでの意思決定の意義と課題についての考察を深める。			B	
第 15 回：仮想問題事例における合意形成(2)：全体討議				B	
期末試験		⑭日本の社会において求められる「技術者倫理」とは何か、なぜそれが必要であるかを自らの言葉で説明する。			
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	現代社会の課題を具体的に指摘し、その背景や原因を複数の観点から考察することができる。	現代社会の課題について、その問題がどのようなものであるかを整理し、それに対する自分の考えを述べることができる。	現代社会の課題に関わる事例を取り上げているが、その事例の表面的な説明に留まっている。
②	技術者倫理に関する事例について、その背景や内容を複数の観点から考察し、その事例から得られる教訓を自分の言葉で説明することができる。	技術者倫理に関する事例について、その背景や内容を考察し、それに対する自分の考えを述べることができる。	技術者倫理に関する事例を取り上げているが、その事例の表面的な説明に留まっている。
③	現代における技術者が備えるべき倫理とはどのようなものかを、論理的な根拠をもとに説得的に提示することができる。	現代における技術者としてふさわしい倫理を提示することができる。	現代における技術者としての倫理を説明することができない。
④	倫理綱領などを基に自ら具体的な活動規範を複数創り出し、それを実践上において実践し、自分の取り組みを省みることができる。	倫理綱領などを基に自らの具体的な活動規範を複数創り出すことができる。	倫理綱領などを基に活動規範を設定はできるが、意義ある活動規範になっていない。